

山本 陽子

日本共産党
京都市議員

2月
市会報告

議員団を代表して 本会議で質問しました

✉ shikai@yamamoto-yoko.jp

京都 山本陽子



議員活動報告動画を
ご覧ください▶



「子どもの貧困対策」は一人ひとりに 支援の制度が届くように!

今回、京都市において策定された計画は、「貧困」を直視せずに「家庭の経済状況から来る『困り』」や「家庭の『子育て力』」を問題にするもので、不十分と言わざるをえません。

抜本的に計画を見直し、一人ひとりに寄り添う支援のための体制強化が必要です。

また、対策の実効性を評価するための数値目標を持つことを求めました。市長は、「(対策の) 効果を長期的に検証する必要がある、継続的な実態把握を行う」と述べました。

子育て支援の底上げを!

貧困家庭でなくても、子育て世帯の経済状況は逼迫しています。子育てに対する支援制度の拡充、底上げが必要です。**給付制奨学金の創設、全員制の中学校給食**を求めましたが、コストを理由に願いに背を向けました。**子どもの医療費助成制度の無料化拡充**については、平成31年度までに実施すると述べましたが、「早期に実施を」と求め続けます!



中学校給食要望アンケートの結果を受け取りました

保育園の待機児童について

乳児を対象とする小規模保育事業については、3歳以降の保育園への転園の保障を求めました。保育園の定員増には、需給の調整が可能な公立の保育園を増設して、対応することが求められます。コスト削減の名の下、京都市営の保育園を廃止することを進めており問題です。

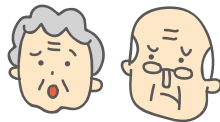


学童保育・児童館事業の 環境改善について

新制度の下、この2年で学童保育の利用者は3434人も増えました。131の児童館では、必要面積の算定について、登録児童数を基礎とするのではなく、出席率で低く見積もっており、子どもたちの詰め込みが生じている場合があります。放課後留守家庭の子ども居場所として、適切な環境を確保する必要があります。面積基準の向上を求めました。さらに、2人から1人に減らされた児童館事業の専任職員を元に戻すことを求めました。

今の敬老乗車証制度の 維持を求めました!

敬老乗車証の利用状況の調査結果から、利用者の方の切実な声や、市の提案する応益負担への変更は8割以上の方が値上げになる可能性のあることを示し、今の制度の維持を求めました。保健福祉局長は、「今以上の市税負担を増やさないために、応益負担を撤回する考えはない」と述べました。引き続き、粘り強い運動を進めましょう!



交通不便地域対策の強化を!

山科区での鏡山循環バスの増便の願いや、小金塚のバス開通の市民の願いについて取り上げて追及しました。副市長は「モビリティ・マネジメントなど地域や民間バス事業者が主体となった取り組みを支援する」と答弁しました。新年度予算では、民間バス事業者へのバス待ち環境改善のための補助を、市の負担を強化すると打ち出しています。もちろん、バスの増便や新規路線には新たなバスや運転手の確保が必要です。路線の充実に見合う対策を引き続き求めます。

街路樹の維持管理について

予算特別委員会の質問

みどり管理事務所が管理する街路樹は高木で4万本、低木で約80万本。街路樹の維持管理予算は約5億円ありますが、単純に割って1本あたり600円ほどしか予算がありません。市民の皆さんからは、街路樹の管理が不十分だとの指摘をうけています。

一方で、290本の新規植樹について1年で1億9000万円もの予算がついています。これは、有料ごみ袋の収入分を財源としてゴミ処理とは関係ない予算に活用する事業によるものです。有料ごみ袋の活用財源だからと多額の植樹を進めるのは、いびつではないかと指摘しました。

ごみ袋代が高すぎるという市民の声もあります。他の事業に使うのではなく、その分を値下げすることが筋ではないでしょうか。

東野交差点の看板撤去で事故防止!

東野交差点の死角となっていた観光看板の撤去を要望し、歩道柵に付け替えられました。保育園への送り迎いで、自転車に乗ってここを通るお母さんも、「見通しが良くなって安心です」と喜んでいただきました。

